

## 第 132 回経営協議会議事要録

日 時 令和 7 年 9 月 18 日（木） 13 時 30 分～14 時 40 分

会 場 甲府キャンパス大学本部棟第 1 会議室

出席者（委 員）

進藤・山本・山中・窪田・野田 各委員

中村学長、黒澤・茅・高見・市川・木内 各理事

（列席者）

小林理事、小俣・數野 各監事、塙・幸田 各副学長、志村・石原 各副理事

雨宮・齊藤・斎藤・赤石・望月・小谷・京唄 各部長

片田特別参事、深澤特命参事、永倉・植村・千野・藤田・笹原・伊藤・四氏 各課長

議事要録確認

第 131 回（R7.6.19 開催）の経営協議会議事要録を確認した。

審議事項

- 1 令和 6 事業年度財務諸表の承認に伴う令和 7 年度学内補正予算（一次）編成（案）について  
市川理事から、資料 1 により、令和 6 事業年度財務諸表の承認に伴い、決算余剰金をもとに、令和 7 年度学内補正予算（一次）を編成する旨の説明があり、審議の結果、これを承認した。
- 2 厚生会館北側広場周辺の排水設備整備に伴う舗装改修（案）について  
市川理事から、資料 2 により、標記舗装改修を行う旨の説明があり、審議の結果、これを承認した。
- 3 病院再整備事業（外来機能強化棟）の延期（案）について  
木内理事から、資料 3 により、病院再整備事業（外来機能強化棟）を延期する旨の説明があり、審議の結果、これを承認した。
- 4 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等（案）について  
高見理事から、資料 4 により、標記コードの記載内容の更新を行いすべての項目において適合していること、本報告書を 10 月末までに本学ホームページにて公表する旨の説明があり、審議の結果、これを承認した。

報告事項

- 1 令和 8 年度概算要求（運営費交付金及び施設整備費補助金）の状況について  
市川理事から、資料 5 により、標記要求の状況等について報告があった。
- 2 基金の設立および新規事業の開始について  
市川理事から、資料 6 により、「大村記念微生物資源研究フロウティラ基金」の設立および「教育学域教育研究基金」における新規事業の開始について報告があった。
- 3 山梨大学発ベンチャーの認定について  
市川理事から、資料 7 により、新たに標記ベンチャーを認定（1 件）したことについて報告があった。
- 4 国立大学法人等の機能強化に向けた改革の方針について  
黒澤理事から、資料 8 により、標記改革の方針について報告があった。
- 5 理事の担当（研究インテグリティ）の追加について  
高見理事から、資料 9 により、理事の担当を追加することについて報告があった。

次回会議 令和 7 年 11 月 20 日（木） 13 時 30 分から開催することを確認した。

審議事項

3 病院再整備事業（外来機能強化棟）の延期（案）について

（野田委員）

- ・大学病院だけでなく公立病院や診療所なども含め、医療機関が厳しい経営状況であることは承知している。物価高騰や賃上げの要請等がある一方で、診療報酬が上がらないという構造的な問題である。診療報酬の引き上げなどの経営支援が必要不可欠であるが、次の報酬改定に向けた取組や関連情報などは把握しているのか。

（木内理事）

- ・文部科学省や厚生労働省には、国立大学病院長会議などを通じて、全国の国立大学病院の現状を伝えている。また、議員連盟を立ち上げ、財務省にも働きかけるなど対応を行っている。
- ・次の診療報酬改定に関しては、具体的な内容については情報を得ていない。大学独自の経費削減などは既に限界であり、本学のみならず、全国の国立大学病院が経営的に厳しい状況であることから、例えば、大学病院特有のDPC係数の算定など、経営改善に向けた支援が必要と思われる。

（野田委員）

- ・診療報酬の引き上げは厳しいようだが、病院経営において赤字が生じた場合、どのような対応を想定しているのか。

（木内理事）

- ・その場合には、まずは大学本部と調整を行う。それでも厳しい場合には民間から借入等も検討することになるのではないかと。経営改善に向けて、既に4月から経営戦略委員会を立ち上げ、毎月議論を重ねるなど、様々な方法で増収・経費削減に病院全体で取り組んでいる。

（山本委員）

- ・大学病院の厳しい経営状況を市民に共有していく必要があると思っている。

（木内理事）

- ・直近2～3年は、国立大学病院長会議が記者会見を開き、また、テレビや新聞などのマスメディアにおいても、国立大学病院の現状が取り上げられている。ただ、一般市民まで大学病院の現状を知ってもらえるよう引続き、情報発信に努めていきたい。

（中村学長）

- ・同時に山梨県選出の国会議員等に対しても、大学病院の現状、経営支援の必要性などを説明し、理解を得られるよう働きかけていきたい。

（進藤委員）

- ・大学病院であるため、経営状況が厳しいのか。また、自由診療はないのか。

(木内理事)

- ・大学病院は特に厳しい。大学病院は高度・先端医療の提供など公益性の高い役割を担っていることもあり、採算が取れないとしても辞めるわけにはいかないため、赤字を黒字部分で補填しているという状況ではある。
- ・自由診療は本院でも一部では実施している。ただし、自由診療は保険診療と重ねることができないので、一部でも保険診療が入ってくると、自由診療にならない。

(進藤委員)

- ・厚生労働省に働きかけはしているのか。

(木内理事)

- ・常に働きかけは行っている。従来物価上昇などは診療報酬改定に考慮されてこなかったが、今回は内閣で物価上昇も加味するとなっているので、来年の診療報酬の改定に期待している。

## 報告事項

### 2 基金の設立および新規事業の開始について

(野田委員)

- ・今回、北里大学と山梨大学で、イベルメクチンに関する融合を果たしたきっかけはあるのか。

(黒澤理事)

- ・北里大学にイベルメクチンライブラリーがあったこと、本学では、グリアや慢性疼痛の研究に力を入れていること、両大学の研究に親和性があったことなどの条件が揃っていたためである。

### 4 国立大学法人等の機能強化に向けた改革の方針について

(山本委員)

- ・日本における様々な機能が老朽化していたり、未来への投資が難しかったりする中で、2040年と言わず、2100年を見据えて、今何を行うのか考えてもらいたい。国に依存するのではなく、地方における様々な機能の維持や、留学生のことについて、地域の視点で考えていてもらいたい。

(中村学長)

- ・ご助言を踏まえて、検討していきたい。